

## 学会録事

### 日本藻類学会研究奨励賞の募集について

現在2005年の日本藻類学会研究奨励賞の募集を行っております。本賞はおおむね33歳以下の若手研究者を対象とし、藻類学の発展に積極的に寄与することを期待し、藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた大学院生等を表彰するものです。学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jsp/Welcome.htm>) に掲載されている本賞の募集案内を参照の上、多数の方々にご応募くださることを期待しています(応募締切日 平成17年12月25日(日)消

印有効)。

提出先・問い合わせ先

〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学内海域環境教育研究センター内 日本藻類学会事務局

Tel&Fax: (078) 803-5781

E-mail: hanyut@kobe-u.ac.jp

## 研究課題公募

### 「地球環境研究総合推進費」18年度新規研究課題の公募について

地球環境研究総合推進費は、地球環境政策を科学的に支えることを目的とした環境省の競争的研究資金です。研究機関に所属する研究者であれば、産学官等を問わず研究に参画できます。

10月14日(金)正午から11月30日(水)正午まで、平成18年度新規研究課題を公募します。

公募の対象研究や募集方針、応募方法などの詳細を記した公募要項、並びに現在進行中の研究課題などについては、推進費ホームページをご覧ください。

※推進費ホームページ (<http://www.env.go.jp/earth/suishinhi/index.htm>)

<問合せ先>環境省地球環境局研究調査室 (E-mail: [suishinhi@env.go.jp](mailto:suishinhi@env.go.jp))

## 書評・新刊紹介

### —淡水珪藻生態図鑑—

渡辺仁治(編著) 内田老鶴圃 A4判 xi+100+666頁, 定価(本体)33,000円 ISBN 4-7536-4047-7

本書は日本国内のみならず世界各地で採集された約1500サンプルの中から生態情報を処理検討した約1000種の珪藻について、その結果を分かり易くまとめたもので、「群集解析に基づく汚濁指数DIApo, pH耐性能」の副題がついている。付着珪藻群集を環境指標とすることによって、河川の汚濁と湖沼の富栄養化の度合いを同一の尺度で測ることが出来るようになり、流水域(河川)における貧腐水性から強腐水性までの腐水体系に基づく汚濁階級と、止水域(湖沼)における貧栄養から富栄養までの栄養体系に基づく栄養階級との合体が可能となった現在、環境指標として付着珪藻群集を用いることには大きな意義がある。本書の編著者である渡辺らによって開発されたDIApo (Diatom Assemblage Index to organic water pollution)は、付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数のことで、有機汚濁に対する止水域・流水域共通の生物指数である。

本書は、序文・目次・凡例に続く100頁の総論と637頁の写真編、及び索引で構成されている。総論では、第1章 珪

藻研究の歴史、第2章 環境指標としての珪藻群集、第3章 湖沼・河川共通の水質汚濁指標DIApo、第4章 珪藻の生活様式、第5章 試料の採集、第6章 試料の処理と検鏡、第7章 形態(種の同定に関わる特性要素)の解説があり、参考文献を収録している。写真編は、珪藻の顕微鏡写真とその解説で、形態及びDIApoとpHに対する相対頻度を示した図を含む生態が種ごとにまとめられた図鑑となっている。索引は、学名総索引と事項索引で構成されている。

長年にわたって珪藻の研究を続けてきた編著者の渡辺仁治氏に加え、浅井一視氏、大塚泰介氏、辻彰洋氏、伯耆晶子氏が執筆に携わっている。顕微鏡を用いてようやく見ることのできる珪藻の種の同定は、決して容易な作業ではないが、本書のような多くの図版を含む図鑑の助けにより環境指標としての付着珪藻群集の研究が更に進展することが期待される。研究者のみならず水質等の環境調査に携わる調査研究機関に欠くことのできない必備の書であろう。

(有賀祐勝)

### —「広島海藻」増補改訂版(1954年～2004年)—

田中 博発行, A4版, 上製本(布クロス・ケース付き) カラー印刷 290頁, 定価 4,000円(消費税・送料別)

著者の田中 博・田中貞子さんご夫妻は、広島市内に在住され、広島市の元宇品海岸において、実に50年間を超える長い期間にわたり、海藻類を採集し、種名を記録するとともに、押し葉標本として保管されてきた。また、ご夫妻は、広島県

の沿岸を中心として、広く瀬戸内海における海藻の採集とその記録も続けてこられている。それら活動成果の一部については、すでに「元宇品の海藻」(1996; 田中 博発行)、「ひろしまの海藻」(1999; 田中 博発行)、「弓削の海藻・磯の生物」